

北九州憲法ネットニュース

2006年7月25日(火) 第14号

発行 憲法をまもる北九州市民ネットワーク
803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F
Tel & fax 922-4014 E-mail⇒mail@kitaq-kenpou.net
URL⇒http://kitaq-kenpou.net/

「もし国民が改憲に対して『ノー』と言った場合、世界史はどう変わるか」8月12日、品川正治憲法講演会を大成功させよう！

北九州憲法ネットの第3回総会が8月12日(土)に開催されます。(於 ムーブ、13時) 秋には、継続審議となった「国民投票法案」も出てきて、いよいよ憲法改悪を推進する勢力との正面からの歴史的な闘いの時を迎えようとしています。

この時期に第3回総会を開く北九州憲法ネットの一層の奮闘が求められています。総会に先立ち、「平和のうたごえ」と、品川正治さんを迎えての「憲法講演会」を行います。どちらも、魅力的なものとなります。いまから、周りの方に参加を呼びかけま



よう。

平和のうたごえが響く！

青い空合唱団などの「北九州のうたごえ」チームによる合唱と、小倉南区沼地域で民主運動を

展開している渡辺末子さんの独唱が行われます。渡辺さんは昨年CDを自費出版。4月に行橋



市で開かれた「ミュージックフェスタ」にも出演した実力者です。

品川氏の講演に期待を！

講演をお願いする品川正治さんは、今全国を、憲法問題で講演して廻っています。日本火災

海上(現日本興亜損保)社長・会長を歴任した、経済界の出身で、異色の憲法講師として有名

です。講演に期待がされます。



北九州教職員九条の会が街頭に！

6月10日に結成された「北九州教職員九条の会」は、職場での賛同者を広げる行動をおこなっています。「とにかく声を上げ

ねば」と奮闘が続いています。7月1日には、教職員組合の定期大会会場(南区生涯学習センター)まえでのアピール配布を行

いました。さらに、毎月一回、街頭に出での宣伝をおこないます。(7月は24日、黒崎駅)

わかまつ九条の会は、毎月宣伝

わかまつ九条の会は毎月宣伝行動を続けています。6月9日に配ったビラは「愛を押し付けられますか？」として、教育基本法改悪の狙いを糾弾する内容となっています。

足立・寿山・富野九条の会(準備会)で学習会

小倉北区の「足立・寿山・富野九条の会(準備会)」は、6月20日縄田弁護士を講師に、学習会を開きました。25名が参加しました。

講師は「人を殺さないと決めたのが憲法九条、人の生きる権利を決めたのが憲法二十五条」と、講演。参加者から「二十五条の大切さについて本当に勉強

強になった」「憲法の内容の素晴らしさを再認識した」などの感想が寄せられました。



小倉南区西部九条の会も学習会

小倉南区西部地域九条の会も六月二十一日に学習会を開きました。三十二名が参加しました。北九州憲法ネットの野瀬事務局次長が、九条の会全国交流集会の参加報告を行い、全国の経験

を学びました。また、西部地域世話人の清水さんを講師に、憲法そのものについて、北朝鮮問題もからめて学習しました。参加者も全員発言し、学習と交流を深めることができました。

門司区・旧東郷村地域九条の会(準備会)が呼びかけ人会議

門司区の大積・白野江地域を中心に組織を進めている「旧東郷村地域九条の会(準備会)」は呼びかけ人会議を7月16日に開き、8月27日(日)に結成総会を開くことを決めました。

八幡西区・本城九条の会初の街頭宣伝

八幡西区の「本城九条の会」では、7月13日、17時から友田公園まで、街頭宣伝・署名行動を

行いました。折尾九条の会の看板も借りてマイク宣伝と署名の訴えをしました。



◆最近のマスコミ報道(06/07/21) 昭和天皇 靖国参拝メモ 朝日新聞

靖国神社への戦犯の合祀(ごうし)は1959年、まずBC級戦犯から始まった。A級戦犯は78年に合祀された。大きな国際問題になったのは、戦後40年の85年。中曽根康弘首相(当時)が8月15日の終戦記念日に初めて公式参拝したことを受け、中国、韓国を始めとするアジア諸国から「侵略戦争を正当化している」という激しい批判が起こった。とりわけ、中国はA級戦犯の合祀を問題視した。結局、中曽根氏は関係悪化を防ぐために1回で参拝を打ち切った。だが、A級戦犯の合祀問題はその後日中間を中心に続いている。昭和天皇は、戦前は年2回程度、主に新たな戦死者を祭る臨時大祭の際に靖国に参拝していた。戦後も8回にわたって参拝の記録があるが、連合軍総司令部が45年12月、神道への国の保護の中止などを命じた「神道指令」を出した後、占領が終わるまでの約6年半は一度も参拝しなかった。52年10月に参拝を再開するが、その後、75年11月を最後に参拝は途絶えた。今の天皇は89年の即位後、一度も参拝したことがない。首相の靖国参拝を定着させることで、天皇「ご親拝」の復活に道を開きたいという考えの人たちもいる。

自民党内では、首相の靖国参拝が問題視されないよう、A級戦犯の分祀(ぶんし)が検討されてきた。いったん合祀された霊を分け、一部を別の場所に移すという考え方で、遺族側に自発的な合祀取り下げが打診されたこともあるが、動きは止まっている。靖国神社側も、「いったん神として祭った霊を分けることはできない」と拒んでいる。ただ、分祀論は折に触れて浮上している。99年には小淵内閣の野中広務官房長官(当時)が靖国神社を宗教法人から特殊法人とする案とともに、分祀の検討を表明した。日本遺族会会長の古賀誠・元自民党幹事長も今年5月、A級戦犯の分祀を検討するよう提案。けじめをつけるため、兼務していた靖国神社の崇敬者総代を先月中旬に辞任している。

◇《靖国神社に合祀された東京裁判のA級戦犯14人》

【絞首刑】(肩書は戦時、以下同じ) 東条英機(陸軍大将、首相) 板垣征四郎(陸軍大将) 土肥原賢二(陸軍大将) 松井石根(陸軍大将) 木村兵太郎(陸軍大将) 武藤章(陸軍中将) 広田弘毅(首相、外相)

【終身刑、獄死】平沼騏一郎（首相）小磯国昭（陸軍大将、首相）白鳥敏夫（駐イタリア大使）梅津美治郎（陸軍大将）【禁固20年、獄死】東郷茂徳（外相）【判決前に病死】松岡洋右（外相）永野修身（海軍大将）



カンパ・メッセージありがとうございました。(敬称略)

6月 上西創造、有馬真弓、中野治、山口実子、青木正和、杉園友生、松涛秀道、松井岩美、末次美智、野瀬秀洋、玉井史太郎、一ノ瀬和世、島内弥七、藤井利秋、荒牧啓一、吉田文弘、多加喜悦男、三輪俊和、三輪幸子、
7月 大内百合子、勝木多美、吉本まさ江、森田禮三、扇崎光雄、古野和彦、水上建二郎、土井善博、

●小額ですみません。資料送付代のカンパと理解しましたので。5/30 O.K
●9条の会の皆様の努力は素晴らしい！負けないでください。6/16 A.M
●今後とも情報よろしくお願い致します。6/19 Y.Z●わずかですが、役立ててください。6/19 S.T●”九条の会”が全国で組織結成数が5174！——どこまで増えるか大いに期待します。敵の策動を打ち破って九条を守り抜けば、米国の世界戦略に風穴をあけることができ、世界平和へ大きな貢献となることでしょう。6/21 T.F●老齢と通院の為に中々参加が困難だが、8月12日は無理してでも参加します。6/26 F.T



◆北朝鮮ミサイル発射をどう見るか「連合通信・隔日版」2006年7月11日 日米軍事強化につながる恐れ／広島市立大学広島平和研究所・所長 浅井基文さん

北朝鮮によるミサイル発射は、もちろん歓迎すべきことではない。発射された七発のうち六発がかなり正確に目標地点に着弾した。これは命中精度が向上していることをしめす。「日本の方向」に向けて発射されたと報道されているが、実際はそうではない。距離的にも大きく離れている。これは北朝鮮が日本を過度に刺激しないように配慮したことのアラわれだろう。日本では「けしからん」という論調が目立ち、政府もそうした姿勢を強めている。日本は過度に反応しているのではない。北朝鮮がミサイルを発射した

最大の動機は、国際的な孤立状況を打破しようということ。けっして軍事的な挑発を目的に発射したのではない。この点を踏まえて考えることが大切だ。今回、まず米国が「北朝鮮のミサイル発射が近い」という情報を流し、日本に衝撃を与えた。この情報提供の背景にあるのが、在日米軍基地の再編問題。日米政府は基地再編を正当化する手段として北朝鮮カードを使ったとも見られる。日米政府は今後、ミサイル問題を(再編対象とされる)基地周辺住民に対する説得材料として利用する可能性が高い。したがっ

て、私たちが今回のミサイル問題を考える場合、在日米軍の再編問題や、それに伴う日米関係の軍事的変質などの危険性を絶対に忘れてはいけないということだ。
日本にとって最大の問題は、北朝鮮ミサイル問題を契機に米国の先制攻撃戦略に大きく組み込まれようとしていること。この危険性に無関心でいることのほうが大きな問題だ。ミサイル問題で私たちの判断力を衰えさせず、この本質をしっかりとチェックしていかなければならない。(談)「連合通信・隔日版」

憲法をポケットに 週のはじめに考える <「東京新聞」6月25日「社説」>

飾っておくだけでは役に立ちません。まして仕舞い込んではないも同然です。いつも持ち歩いて、絶えず意識し、現実と照合する。それが憲法を生かします。

憲法改正の国民投票法案、教育基本法改正案、防衛庁を省に昇格する法案…白本の将来を暗示する宿題を残して通常国会が閉会しました。ポスト小泉レースの結果によっては、三法案の先にある「憲法改正」が一層現実味を帯びてくるでしょう。

そんな折、米連邦議会の重鎮ロバート・バード上院議員(民主党)の在職が一万七千三百二十七日を超え、歴代最長記録を更新しました。合衆国憲法の写しをいつもポケットに携帯し、イラク戦争に反対したりベラリストです。

いつも持ち歩き読む

憲法の重さを身をもって知り、大切にしていた世代が次々引退している日本の現状と、つい照らし合わせてしまいます。宮沢喜一元首相は、国会を離れてからも尻ポケットの手帳に日本国憲法が印刷された紙を挟んでいます。時々、取り出して読みます。宮沢さんの番組をつくったテレビプロデューサーが「新・調査情報」59号誌上で披露したエピソードです。「この憲法についてはあまりよく知らないからです」「明治憲法は学校でさんざん習ったのです。でも、新憲法は学校で習ったことがないのでいつも持ち歩いています」この言い方はシャイな宮沢さんらしい謙遜で、本当は「常に憲法を意識する」姿勢の表れでしょう。宮沢さんの覚悟を知ると小泉純一郎首相をすぐ連想します。

憲法解釈は「常識で考えろ」で押し通し、「どこが非戦闘地域で、どこが戦闘地域か、私に分かるわけがない」と開き直ってイラクに自衛隊を送り出しました。戦争指導者も祭られている靖国神社に首相が参拝することで心に痛みを感じる人には目もくれません。

香りが漂ってこない

こんな首相が日常的に憲法を読み返しているとは思えません。かつて日本による中国支配で重要な役割を担った人物を祖父に持ち、国際的なタカ派路線が評価されている安倍晋三内閣官房長官、中国や朝鮮半島の日本支配を肯定するような発言をした麻生太郎外相など、小泉後継の候補といわれる人たちの周辺からも“平和憲法の香り”は漂ってきません。

戦前からのエリートの血筋を受け継いだり、選挙地盤や財産を祖父、父から譲り受けた二世、三世の政治家、そうでなければ政治家養成学校で観念的な政治教育を受け、下積み の苦労を知らない苦手議員たち…この国の政治権力は与野党を問わずこんな人たちの手中にあります。共通点は「戦場に送られるかもしれない」という被統治者の不安に対する想像力の欠如です。「自分は死なない」という気楽さからか、国際政治や軍事をゲーム感覚で語ったりします。

戦後六十年、日本人が生き方を洗い直すために掲げてきた、憲法という旗印が降ろされようとしています。多くの国民がそれを許そうとしているようにも見えます。

護憲コラム

無理やりつれてこられた

「母にむりやりつれてこられた。爆弾ひとつですごい数の人がなくなったんだなあと思いました。火に巻き込まれなかったひとにも影響があるなんて おそろしいへいきだとおもいました」。これは、六月二十五日に上映された長崎の被爆アニメ映画「アンゼラスの鐘」を観た感想文のひとつ。児童のものだが、この映画をみてひとつ成長したようだ。七歳の子も「わたしたちのじだいも せんそうをやめて へいわなせかいになってほしいです」と書いてくれている。十歳の

女の子は「平和の大切さがわかりました。これからも、平和について考えて生きたいと思えます」と決意まで述べている。心強い▼戦争と平和を考える八月が近づいてきた。街にはやがて、平和行進や反核平和マラソンの姿が見られる。そして長崎・広島での原水爆禁止世界大会へとつづく。生きて帰らぬ犠牲者たちの無念をおもいながら各地で、平和の取組が始まる▼映画の感想文の中に次のようなものがあつた。「若いころは毎年広島、長崎の原爆大会に参

加してきましたが、この十年間程度は動かない人間を続けてきました。これからの人生を、平和を守る運動に捧げようと思いました」。70歳の男性である。「戦争を知らない世代が殆どを占める中で、改めて平和の気持ちが生えた」30代の男性である。映画「アンゼラスの鐘」はまさに人を目覚めさせる映画であるといえよう。貴重な上映会となった。(N生)

